

維持透析患者の経管栄養における 1 日 2 回投与法の安全性

長崎腎病院

○深川千草 森山麗 中村寿恵 丸山祐子 原田孝司 船越哲

【目的】

入院透析患者では、日中に透析治療が入るため、1 日 3 回の経管栄養投与スケジュールの管理が困難である。今回、2 回投与とした場合の患者の安全確保・家族の反応、またスタッフの業務内容について比較する。

【対象・方法】

経管栄養中の維持透析患者 7 名（平均年齢 79.4 歳、NM スケール平均 3 点）に対し、患者に文書での同意を得た後、1 日 3 回の経管栄養を 2 回に変更し、前後における血液検査で栄養状態を評価した。また患者家族と看護師 16 名にアンケートを実施し、意識調査を行った。

【結果】

変更後の群で患者血液データに有意な変化はみられなかった。栄養状態や下痢・嘔吐の頻度にも有意差がなかった。家族へのアンケートでは「触れ合いの時間が増えた」等の回答があった。スタッフからは「透析に左右されず経管栄養を投与でき、業務が削減された」等が聞かれた。

【考察】

経管栄養の 1 日 2 回投与は、患者に安全に施行可能であり、家族の満足度も向上し、医療従事者にとっても業務改善の可能性がある。